

事業コード	H19-建-再-4		区 分	国庫補助 県単独
事業名	通常砂防事業		部局課室名	建設交通部 河川砂防課
事業種別	溪流保全工		班 名	傾斜地保全・砂防班 (tel) 018-860-2532
路線名等	赤沢川		担当課長名	河川砂防課長 萩野 敏明
箇所名	鹿角市尾去沢		担当者名	主幹(兼)班長 荒木 洋
総合計画との関連	政策コード	C	政策名	快適で安全な生活を支える環境づくり
	施策コード	03	施策名	災害に強い県土づくりと危機管理体制の充実
	指標コード	05	施策目標(指標)名	土砂災害危険箇所整備率

1. 事業の概要

事業期間	H10 ~ H22 (13年)		総事業費	11.0億円	国庫補助率	1/2	
事業規模	溪流保全工L=911.9m、床固工N=19基						
事業の立案に至る背景	赤沢川は標高551.0mの山麓に源を發し、上山集落を通過して赤金川に合流し一級河川米代川に注ぐ流域2.58km ² の土石危険溪流である。流域の地質は第三紀火山碎屑岩類を基盤とし、風化が著しく進んでおり、溪流内のいたるところで巨れき・転石が不安定な状態で堆積しており、土石流災害の恐れが高まっている。下流保全地域には人家が密集しており、災害時要援護者関連施設(尾去沢保育園)や市道等の公共施設もあることから、今後の豪雨により土砂災害が発生した際の被害は甚大かつ市民生活に大きな影響を及ぼすものと予想される。 このことから、砂防施設整備をもって土砂災害から地域住民の生命・財産を保全するものである。						
事業目的	主たる目的 砂防施設を配置することにより、流出土砂による被害を未然に防止し、土砂災害から住民の生命・財産を守る。 保全対象 人家30戸、耕地2.3ha、橋梁12基、集会所、保育所、市道1,100m						
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)		計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等		
	事業費	1,095,000	1,095,000	0			
	経費内訳	工事費	469,100	469,100	0		
		用補費	367,300	367,300	0		
		その他	258,600	258,600	0		
	財源内訳	国庫補助	547,500	547,500	0		
		県債	492,750	492,750	0		
その他		0	0	0			
一般財源	54,750	54,750	0				
事業内容	本工事 詳細設計 調査設計 用地補償	本工事 詳細設計 調査設計 用地補償			平成18年度継続評価時より、事業費の変更はありません。		
事業の進捗状況	全体計画	10.95億円	平成18年度末投資額	7.80億円	進捗率	71.2%	
事業推進上の課題	特になし						
関連する計画等	「あきた21総合計画」第3期実施計画において、「災害に強い県土づくりと危機管理体制の充実」の施策として位置づけられている。						
情勢の変化及び長期継続の理由	家屋連担地区であり、また橋梁等横断工作物も多いことから、作業工程が多かつ複雑である。地元からの意見により、転落防止柵の開閉を可能にして河川を雪捨場として活用する。以上の通り、工事が複雑であること、地元との積極的な調整を行っているため期間を要している。						
事業効率把握の手法及び効果	指標名	土砂災害危険箇所整備率					
	指標式	概成箇所数 / 危険箇所数					
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 無		
	目標値 a	24.2 %		データ等の出典	危険箇所調査結果		
	実績値 b	22.3 %					
達成率 b/a	92.1 %		把握の時期	平成19年 3 月			

前回評価結果等	選定または継続	改善	見直し	保留または中止
	指摘事項			
	特になし			
	指摘事項への対応			
	特になし			

2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評 価 点
必 要 性	下流域には人家30戸や市道新山城山線、災害時要援護者施設の尾去沢保育園等を保全対象として有しており、流域内には不安定土砂や転石・巨れきが堆積していることから、今後の豪雨等により土石流災害が発生し、甚大な被害となることが予想されている。また、地元からも砂防施設整備により土砂災害対策を望まれており、必要性は高い。	20点
緊 急 性	流域の地質は第三紀火山砕屑岩類を基盤とし風化が著しく進んでおり、渓流内でもいたるところで巨れきや転石が不安定に堆積していることから、豪雨により押し流され土石流が発生する危険性が高い。これらが下流の集落などの生活基盤へ流出した場合、甚大な被害が予想されることから、事業の早期完成が必要である。	10点
有 効 性	手段の妥当性 砂防事業は砂防法により都道府県知事が行うものとして位置づけられている。また、被害想定範囲に係る人家および公共施設すべての集団移転等の代替案の実現性は極めて低い。 整備効果 対策により、流域内の大量な不安定土砂等を豪雨時にも安全に流下させることが出来るので、保全対象である多数の人家や公共施設の保全を図れ、整備の有効性は高い。	10点
効 率 性	費用対効果 事業の費用対効果は2.37であり、効率性は高い。 コスト縮減等の取り組み状況 再生材を使用し、コスト縮減に積極的に取り組んでいる。	30点
熟 度	地域の状況 地元住民および鹿角市と合意形成が図られており、順調に事業が推進している。 事業進捗の見込み 平成22年度の完成を予定している。 環境対策 土工部分の法面緑化に在来種を使用するなどの対策を講じている。	20点
判 定	ランク () 地元からの要望が高く、「必要性」「有効性」「効率性」等から事業の重要性は高く評価できる。	90点
総 合 評 価	継続 改善して継続 見直し 中止 事業継続は妥当である。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

引き続きコスト縮減に留意しながら事業を継続する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を「可」とする。

評価種別 継続箇所評価
適用基準名 砂防課所管事業

事業コード(H19-建-再-4)
箇所名 (鹿角市尾去沢)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	県民のニーズ	変化なしまたは増加している	20	20	
		若干低下している	10		
		非常に低下している	0		
	計		20		
緊急性	危険度	変化なしまたは増大している	10	10	崩壊進行、地下水位上昇等 地下水位低下、残斜面安定
	斜面、溪流等の危険度	若干低下している	5		
		非常に低下している	0		
	計		10		
有効性	災害発生時の影響	変化なしまたは増加している	10	10	
	保全対象数の変化	若干減少している(80%以上)	5		
		非常に減少している(80%未満)	0		
	計		10		
効率性	事業の効率性・進捗状況				
	費用便益分析(B/C)	1.0以上	10	10	
		1.0未満	0		
	対策工法、工事に関連する課題	課題なし又は解決済みで順調な進捗が見込まれる	10	10	
		課題はほぼ解決済みであり、進捗に大きな影響はない	5		
		課題はあるが、解決する見込みである	3		
	コスト縮減計画	課題解決の見込みなし又は事業が停滞している	0	10	10
具体的なコスト縮減計画がある		10			
具体的な計画はないが、検討中である		5			
コスト縮減計画無し	0				
計		30	30		
熟度	地元の協力状況				
	事業の進捗状況	計画どおり進捗している(100%以上)	10	10	
		概ね計画どおり進捗している(70%以上100%未満)	5		
		計画より遅れている(70%未満)	0		
	地元住民・関係自治体等に関連する課題	課題なし又は解決済みで順調な進捗が見込まれる	20	10	用地、補償物件等
		課題はほぼ解決済みであり、進捗に大きな影響はない	10		
		課題はあるが、解決する見込みである	5		
課題解決の見込みなし又は事業が停滞している	0				
計		30	20		
合計			100	90	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上		
	優先度が高い	60点以上～80点未満		
	優先度が低い	60点未満		